

## 認定中心市街地活性化基本計画の最終フォローアップに関する報告

平成26年5月  
長岡市（新潟県）

### 全体総括

計画期間；平成20年11月～平成26年3月（5年5月）

#### 1. 計画期間終了後の市街地の状況（概況）

本市は「まちなか型公共サービスの展開」と「市民協働によるまちづくりの展開」により、長岡広域市民の「ハレ」の場となる新しい長岡の「顔」づくりに取り組んできた。その結果、長岡市の中心市街地は、都市機能の更新と再集積、さらには、市役所機能のまちなか回帰などにより、市民が憩い集う「居場所」となっており、長岡広域市民の「文化・情報・交流の場」へと質的に転換し、多くの市民に愛される場所として生まれ変わってきている。来街者は多世代にわたり増加し、確実に賑わいが戻ってきており、まちなかに来る人々は楽しい顔をしている人が増えたように思われる。

本計画の中核事業として整備した、シティホールプラザ「アオーレ長岡」は、平成24年4月にオープンし、市役所機能とアリーナ、ナカドマ（屋根付き広場）が一体となった複合施設となっており、様々な市民活動やイベントなどが常時行われる、市民協働と交流の拠点となっている。アオーレ長岡の他、フェニックス大手や市民センター等それぞれの施設においても、市民活動やイベント、学習の場、文化事業などが幅広く展開されている。

このほか、アオーレのオープンを契機にまちなかの活性化に向けた新たな動きも出てきている。例えば、中心市街地の空き店舗等へ飲食店の出店が増えているほか、中心商店街とその周辺的大型店が連携して合同セールを行うなど、アオーレ整備の副次的な効果が現れている。また、中心市街地活性化協議会の各種事業のほか、NPO法人や商店街など、民間団体もそれぞれが賑わい創出に向けた新たな取り組みを進めている。

一方で、「まちなか型公共サービス」の展開においては、医療や福祉のサービスが不足しているとの指摘もあり、さらに、来街者の回遊性の実態は公共施設周辺の範囲にとどまっており、今後の課題となっている。

#### 2. 計画した事業は予定どおり進捗・完了したか。また、中心市街地の活性化は図られたか（個別指標毎ではなく中心市街地の状況を総合的に判断）

##### 【進捗・完了状況】

概ね順調に進捗・完了した       順調に進捗したとはいえない

##### 【活性化状況】

かなり活性化が図られた  
 若干の活性化が図られた

活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）

活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

#### 【詳細を記載】

当初予定されていた全70事業中38事業が完了、32事業が予定通り実施中であり、計画している事業は概ね遅延なく実施できた。

また、各取組により、中心市街地への来街者は増加しているが、いまだ経済状況が厳しいことを背景に従業者数や、中心市街地の人口は目標を上回ることが出来なかった。

しかし、上記「1.」のとおり、まちなかに賑わいが戻ってきており、中心市街地を「自分の場所」ととらえる市民も増えていることは、これまでの取組みの一定の成果と言える。

### 3. 活性化が図られた(図られなかった)要因(長岡市としての見解)

アオーレ長岡の整備により、中心市街地が市民活動・市民協働の拠点として定着したのは、「まちなか型公共サービス」の展開と市民協働のまちづくりの積極的な取組みがうまく機能したためであると言える。特段のお金を使わなくても自由に過ごすことのできる市民の居場所が中心市街地にあることで、人々の居心地を良くさせ、多くの市民に利用されることとなり、中心市街地の再生につながった。

さらには大手通りの市街地再開発ビル「フェニックス大手ウエスト」には、高層マンションや「子育ての駅ちびっこ広場」などが、「フェニックス大手イースト」には市役所庁舎のほか、中越大震災の記録を保存・継承する「長岡震災アーカイブセンター きおくみらい」や市内3大学1高専や市民、長岡市が企画・運営する「まちなかキャンパス長岡」が開設され、これらの公共施設が、中心市街地における交流の場や自発的な学びの場として積極的に利用されており、賑わいの創出に貢献している。

また、長岡駅大手口駅前広場再整備事業により、公共交通機関の利用者及びJR長岡駅の東西を往来する歩行者の利便性が向上し、歩行者通行量の押し上げに貢献した。

### 4. 中心市街地活性化基本計画の取組に対する中心市街地活性化協議会の意見

#### 【活性化状況】

かなり活性化が図られた

若干の活性化が図られた

活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）

活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

#### 【詳細を記載】

長岡市中心市街地活性化協議会としては、行政、関係団体等と協議・調整を重ねながら、中心市街地活性化の推進を行ったところ、計画に位置付けられた事業は概ね順調に実施されたと考える。

中心市街地の活性化に向けての事業実施にあたり、引き続き下記4点に留意してまちづくりを行政とともに進めていきたい。

## 1 中心市街地活性化「長岡モデル」の確立、ならびに更なる成熟と進展

新しい市役所像を示した「アオーレ長岡」に代表される「まちなか型公共サービス」の展開と市民協働のまちづくりによる中心市街地活性化を全国に誇れる「長岡モデル」として更に成熟させ、より一層の官民連携、官民協働により、中心市街地における着実なまちづくりの進展に努めていきたい。

## 2 市民への広報広聴について

中心市街地の活性化事業に取り組むには、合併して広域となった長岡市全域・全市民の理解が必要である。当協議会としても行政・関係機関と連携しつつ、各界各層の市民を巻き込んだ活性化施策への取り組み、また近年の情報化社会に対応したさまざまな情報ツールを活用し、広報等に取り組んでいきたい。

## 3 市街地のリノベーション等による中心市街地全体への波及効果について

市街地再開発事業に加え、市街地リノベーションを誘発し、充実させるため、また、まちなかの賑わい創出のための各種事業の創意工夫、独自性に対し柔軟な対応と積極的な支援等を進めていきたい。

## 4 その他

民間・公共を問わず、今後企画検討される事業についても、当協議会との連絡、調整の中で、新たなメニューとして積極的に取り入れていきたい。

## 5. 市民意識の変化

### 【活性化状況】

- かなり活性化が図られた  
 若干の活性化が図られた  
 活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）  
 活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

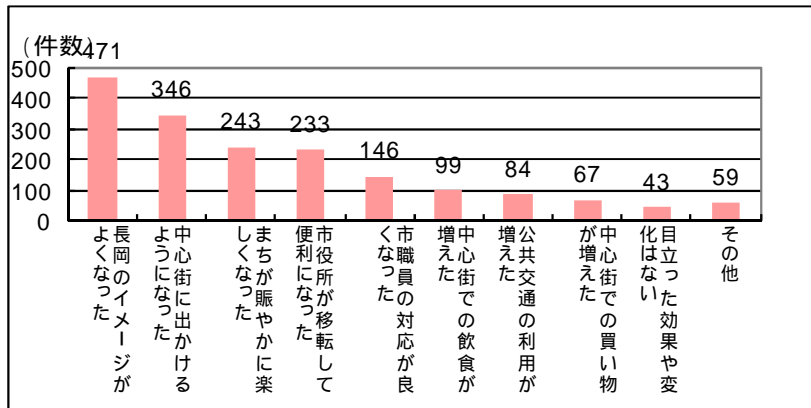
### 【詳細を記載】

アオーレ利用者を対象に半年アンケート(平成 24 年度)

- ・対象者：アオーレ長岡におけるイベント参加者、主催者、利用団体等
- ・調査期間：平成 24 年 9 月～10 月
- ・回答者数：870 人

アオーレ開業後半年を機に、利用者を対象に実施したアンケートでは、「長岡のイメージが良くなった。新しい長岡の「顔」ができた。」「中心市街地に出かけるようになった。」という効果や変化があったといった回答が多く、市内中心部に長岡市民の誇りと自信につながる施設が完成したことが窺える。

アオーレ長岡の誕生により、  
どのような効果や変化があったか



## 6. 今後の取組

アオーレ長岡のアリーナ、ナカドマ等を活用した日常的なイベントの実施やまちなかの各施設との連携により、多彩な市民活動の機会の提供を図り、そういった力をさまざまな地域により一層広げていくことが、中心市街地を育てていくうえで重要である。

中心市街地を自分の場所として捉える市民が増えたとはいえ、一方で、来街者の回遊性の実態は、公共施設周辺の範囲にとどまっている。これは他に訪問する目的が見出せないためと考えられる。今後、人々の回遊性を向上させ、賑わいを広げるためには、中心市街地の広い範囲で来街者が求めるサービス、モノ、あるいは場所を提供することを検討していく必要がある。

具体的には、1期計画の取り組みの成果と課題を踏まえ、大手通表町地区における2つの市街地再開発事業により新たな核施設を整備し、アオーレ長岡との回遊性の創出を推進していく。また、商店街の新陳代謝を活性化させ、力のある個店や元気のある個店を巻き込んだイベント等の交流する機会をつくり、より一層、来街者の回遊の促進を図る。さらに、「まちなか型公共サービス」の機能として不足している健康・医療・福祉分野の機能を導入・強化させることが重要である。

(参考)

各目標の達成状況

| 目標                | 目標指標                   | 基準値                   | 目標値                   | 最新値            |        | 達成状況 |
|-------------------|------------------------|-----------------------|-----------------------|----------------|--------|------|
|                   |                        |                       |                       | (数値)           | (年月)   |      |
| (1)まちに「来る人」を増やす   | 歩行者・自転車<br>通行量         | 80,858<br>人<br>(H19)  | 100,000<br>人<br>(H25) | 93,405 人       | H25.10 | B    |
| (2)まちに「住む人」を増やす   | 居住者数                   | 5,521 人<br>(H20)      | 6,000 人<br>(H26)      | 5,677 人        | H25.4  | B    |
| (3)まちで「働く人」を増やす   | 従業者数                   | 15,934<br>人<br>(H18)  | 16,600<br>人<br>(H26)  | 14,038 人       | H24.2  | C    |
| (4)まちで「活動する人」を増やす | まちなか交流拠点(シティホール)施設利用者数 | 325,000<br>人<br>(H18) | 780,000<br>人<br>(H25) | 1,223,589<br>人 | H25.4  | A    |

注) 達成状況欄 (注: 小文字の a、b、c は下線を引いて下さい)

A (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。さらに、最新の実績でも目標値を超えることができた。)

a (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値を超えることができた。)

B (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)

b (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)

C (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

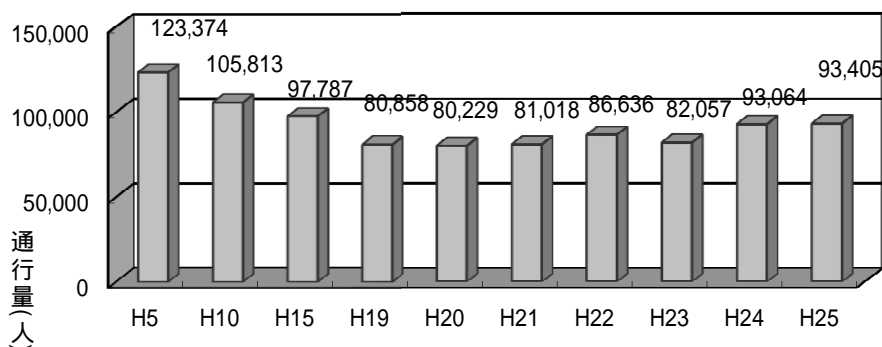
c (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

## 個別目標

目標「まちに来る人を増やす」

「目標指標名」 目標設定の考え方基本計画 P58～P64

### 1. 調査結果の推移



| 年    | (単位)               |
|------|--------------------|
| H19  | 80,858 人<br>(基準年値) |
| H20  | 80,229 人           |
| H21  | 81,018 人           |
| H22  | 86,636 人           |
| H23  | 82,057 人           |
| H24  | 93,064 人           |
| H25  | 93,405 人           |
| (目標) | 100,000 人          |

調査方法；歩行者・自転車通行量調査

調査月；平成 25 年 10 月 26 日、28 日 時点調査

調査主体；長岡市

調査対象；歩行者・自転車(大人、子供、男女別に調査)

### 2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

- ・長岡市公会堂(仮称)整備事業(長岡市)
- ・宝田広場、長岡セントラル広場整備事業(長岡市)
- ・屋根付き広場等整備事業(長岡市)
- ・市民活動ホール(仮称)整備事業(長岡市)
- ・厚生会館地区市役所事務機能整備事業(長岡市)

|                    |  |
|--------------------|--|
| 支援措置名及び<br>支援期間    | まちづくり交付金<br>平成20年度～平成22年度  |
| 事業開始・完了<br>時期      | 平成18年度～平成23年度【済】   |
| 事業概要               | コンサートなど大規模イベントから一般のスポーツ利用などにも利用できるアリーナ(2,123 m <sup>2</sup> )や、中規模のイベントやサークル活動などを行うことに適した市民交流ホールA(314 m <sup>2</sup> )、ナカドマ(屋根付き広場)等を整備。 |
| 目標値・最新値            | 目標値:12,483 人 / 日 最新値:18,400 人 / 日(H25.10)  |
| 達成状況               | 目標を上回って達成  |
| 達成した(出来<br>なかった)理由 | 平成24年4月のアオーレ長岡開業以降、継続的なイベント実施の場として、また、活発な市民活動の場として利用されてきたことにより、当初の見込みを超える成果が現れた。   |
| 計画終了後の状<br>況(事業効果) | アリーナ利用者、イベント参加者などあわせて、年間の利用者が100万人を超えた。  |

|           |   |
|-----------|---|
| 事業の今後について | 今後は、さらなる来街者の増加に結びつく施策を展開するとともに、まちなかの回遊性を高め、来街者の時間消費につながる事業が必要である。 |
|-----------|---|

・大手通中央東地区第一種市街地再開発事業（大手通中央東地区市街地再開発組合）

|                |   |
|----------------|---|
| 支援措置名及び支援期間    | まちづくり交付金<br>平成20年度～平成22年度   |
| 事業開始・完了時期      | 平成18年度～平成23年度【済】  |
| 事業概要           | 3棟の建物に公共施設、店舗、マンション、業務施設を整備。<br>A棟：店舗(1階・2階)、マンション(3階～9階、14戸) B棟：銀行(1階～6階) C棟：店舗(1階)、震災アーカイブセンター(2階)、まちなかキャンパス長岡(3階～5階)、市役所大手通庁舎(5階～8階) |
| 目標値・最新値        | 目標値：400人/日 最新値：1299人/日(H26.3)   |
| 達成状況           | 目標を大幅に上回り達成   |
| 達成した（出来なかった）理由 | まちなかキャンパス長岡の利用状況が非常に盛況であり、利用者が当初見込んでいたよりも多かった。  |
| 計画終了後の状況（事業効果） | 完成したマンションは全戸完売済み。これにより、近年減少が続いていた当該町内(東坂之上町1)の住民基本台帳人口が増加(H22:163人 H23:175人)、まちなかキャンパスの利用者等が多世代にわたり多く訪れるようになった。                         |
| 事業の今後について      | 今後は、さらなる来街者の増加に結びつく施策を展開するとともに、まちなかの回遊性を高め、来街者の時間消費につながる事業が必要である。   |

・大手通中央西地区第一種市街地再開発事業（個人施行者協同組合丸専）

|                |  |
|----------------|--|
| 支援措置名及び支援期間    | 地域住宅交付金<br>平成18年度～平成22年度   |
| 事業開始・完了時期      | 平成18年度～平成22年度【済】   |
| 事業概要           | 地上18階の建物に、店舗(1階)とマンション(4階～18階、63戸)を整備したほか、長岡市民センターから子育て支援施設を移転し、「まちなか絵本館」を新たに併設した「子育ての駅 ちびっこ広場」(2階・3階)を開設した。 |
| 目標値・最新値        | 目標値：753人/日 最新値：237人/日(H26.3)   |
| 達成状況           | 未達成  |
| 達成した（出来なかった）理由 | 商業施設の来店者数がわからないため最新値は低いが、子育て支援施設は当初見込みを上回った。   |
| 計画終了後の状況（事業効果） | 完成したマンションは全戸完売済み。これにより、当該町内(大手通2)の住民基本台帳人口が約2.5倍に増加(H22:43人 H23:111人)、ちびっこ広場の整備により親子連れも訪れるようになり、賑わいが戻りつつある。  |

事業の今後について

今後は、さらなる来街者の増加に結びつく施策を展開するとともに、まちなかの回遊性を高め、来街者の時間消費につながる事業が必要である。

### 3. 今後について

第1期計画の核事業である、「厚生会館地区市役所事務機能整備事業」や「大手通中央東地区市民協働まちづくり実践まちなか型市役所整備事業」による市役所機能のまちなか回帰、アオーレ長岡やまちなかキャンパスなどの市民協働の拠点整備並びにイベント開催の効果により、来街者が増え、確実に賑わいが戻ってきている。

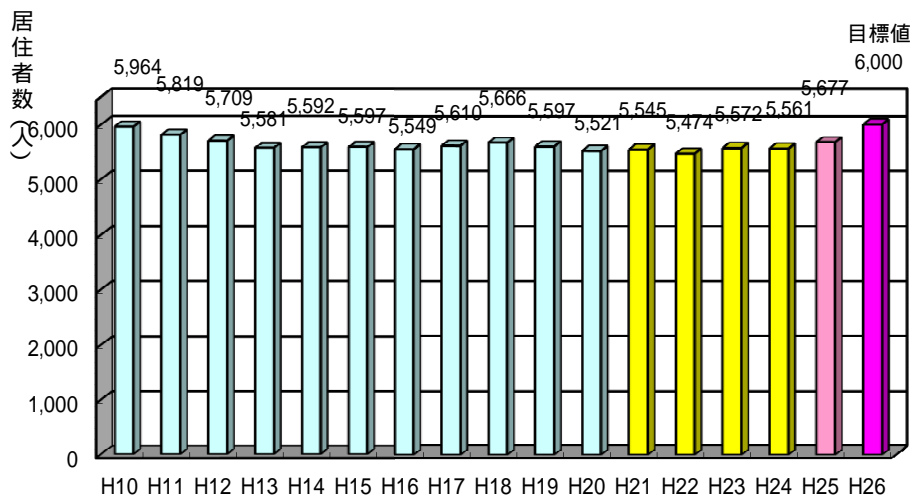
今後は、さらなる来街者の増加に結びつく施策を展開するとともに、まちなかの回遊性を高め、来街者の時間消費につながる事業を実施していきたい。



目標「まちに住む人を増やす」

「目標指標名」 目標設定の考え方基本計画 P65～P68

1. 調査結果の推移



| 年   | (単位)              |
|-----|-------------------|
| H20 | 5,521 人<br>(基準年値) |
| H21 | 5,545 人           |
| H22 | 5,474 人           |
| H23 | 5,572 人           |
| H24 | 5,561 人           |
| H25 | 5,677 人           |
| H26 | 6,000 人<br>(目標)   |

調査方法；中心市街地区域での住民基本台帳人口

調査月；平成 24 年 4 月 1 日時点調査

調査主体；長岡市

調査対象；中心市街地内の居住者

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

・大手通中央西地区第一種市街地再開発事業（個人施行者協同組合丸専）【再掲】

|                    |  |
|--------------------|--|
| 支援措置名及び<br>支援期間    | 地域住宅交付金<br>平成18年度～平成22年度   |
| 事業開始・完了<br>時期      | 平成18年度～平成22年度【済】   |
| 事業概要               | 地上18階の建物に、店舗(1階)とマンション(4階～18階、63戸)を整備したほか、ながおか市民センターから子育て支援施設を移転し、「まちなか絵本館」を新たに併設した「子育ての駅 ちびっこ広場」(2階・3階)を開設した。 |
| 目標値・最新値            | 目標値:133人 最新値:129人(H25.4)   |
| 達成状況               | 概ね達成   |
| 達成した(出来<br>なかった)理由 | マンションは全戸完売であり、当初の見込み通り。  |
| 計画終了後の状<br>況(事業効果) | 完成したマンションは全戸完売済み。これにより、当該町内(大手通2)の住民基本台帳人口が約2.5倍に増加(H22:43人 H23:111人)した。                                       |
| 事業の今後につ<br>いて      | 今後は、既存の住宅ストックの活用や新たな市街地再開発事業による積極的な住宅施策により、居住人口の増加に結び付けていく必要がある。   |

・大手通中央東地区第一種市街地再開発事業（大手通中央東地区市街地再開発組合）【再掲】

|                    |   |
|--------------------|---|
| 支援措置名及び<br>支援期間    | まちづくり交付金<br>平成20年度～平成22年度   |
| 事業開始・完了<br>時期      | 平成18年度～平成23年度【済】  |
| 事業概要               | 3棟の建物に公共施設、店舗、マンション、業務施設等を整備<br>A棟:店舗(1階・2階)、マンション(3階～9階、14戸) B棟:銀行(1階～6階) C棟:店舗(1階)、震災アーカイブセンター(2階)、まちなかキャンパス(3階～5階)、市役所大手通庁舎(5階～8階) |
| 目標値・最新値            | 目標値:30人 最新値29人(H25.4)   |
| 達成状況               | 概ね達成  |
| 達成した(出来<br>なかった)理由 | マンションは全戸完売であり、当初の見込み通り。   |
| 計画終了後の状<br>況(事業効果) | 完成したマンションは全戸完売済み。これにより、近年減少が続いていた当該町内(東坂之上町1)の住民基本台帳人口が増加(H22:163人 H23:175人)した。   |
| 事業の今後につ<br>いて      | 今後は、既存の住宅ストックの活用や新たな市街地再開発事業による積極的な住宅施策により、居住人口の増加に結び付けていく必要がある。  |

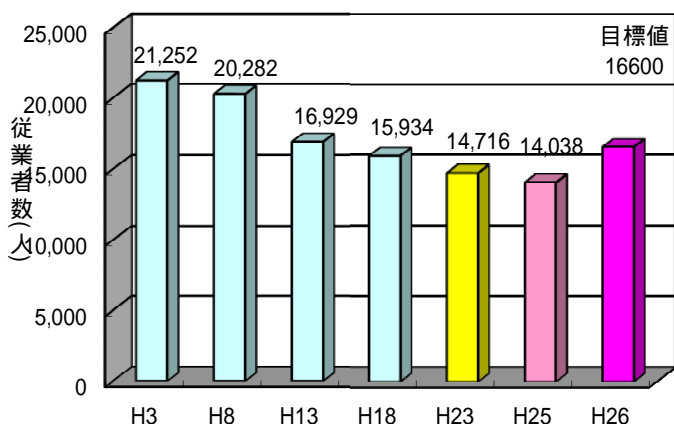
### 3.今後について

大手通中央西・東地区における市街地再開発事業による集合住宅が整備されたことにより、中心市街地の現在の人口は横ばいを維持している。しかし、長岡市全体の人口が減少傾向にあることや、リーマンショック以降、民間マンションの供給が低迷していることなどの理由により、まちに住む人の目標は達成できていない。今後は、既存の住宅ストックの活用や新たな市街地再開発事業による積極的な住宅施策により、居住人口の増加に結び付けていく。

目標「まちで働く人を増やす」

「目標指標名」 目標設定の考え方基本計画 P73～P76

1. 調査結果の推移



| 年   | (単位)               |
|-----|--------------------|
| H18 | 15,934 人<br>(基準年値) |
| H23 | 14,716 人           |
| H25 | 14,038 人           |
| H26 | 16,600 人<br>(目標値)  |

調査方法；平成 21 年経済センサス基礎調査（平成 18 年以前は事業所・企業統計調査）

調査月；平成 21 年 7 月 1 日時点調査、平成 23 年 6 月公表

調査主体；経済産業省調査をもとに長岡市が集計

調査対象；中心市街地内の従業者

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

・厚生会館地区市役所事務機能整備事業（長岡市）

|                    |   |
|--------------------|---|
| 支援措置名及び<br>支援期間    | まちづくり交付金<br>平成 20 年度～平成 22 年度   |
| 事業開始・完了<br>時期      | 平成 19 年度～平成 23 年度【済】  |
| 事業概要               | 市役所機能の一部を中心市街地の厚生会館地区に配置する  |
| 目標値・最新値            | 目標値：900 人 最新値：854 人（H26.4.1）  |
| 達成状況               | 概ね達成  |
| 達成した（出来<br>なかった）理由 | 当該事業は計画どおり完了し、アオーレ長岡に市役所本庁舎機能を移転し、平成 24 年 4 月から業務を開始したことで、新たに市役所職員約 900 人が中心市街地で勤務することになった。 |
| 計画終了後の状<br>況（事業効果） | さらに、市民の生活に関わる身近な手続きの窓口（11 窓口）をワンフロアに配置し、目的別の窓口配置をすることにより、たらい回しのない組織横断的なサービス提供を可能にした。        |
| 事業の今後につ<br>いて      | 今後は、まちなかにおける新たな核づくりを進めるとともに、商業の新陳代謝や外部からの参入を促進する必要がある。                                      |

・大手通中央東地区第一種市街地再開発事業（長岡市）【再掲】

|                    |  |
|--------------------|--|
| 支援措置名及び<br>支援期間    | まちづくり交付金<br>平成20年度～平成22年度  |
| 事業開始・完了<br>時期      | 平成20年度～平成23年度【済】   |
| 事業概要               | 大手通中央東地区の市街地再開発ビルに市役所大手通庁舎を整備し、<br>本庁舎機能の一部を配置する。  |
| 目標値・最新値            | 目標値:25人 最新値:228人(H26.4.1)  |
| 達成状況               | 大幅に上回って達成  |
| 達成した（出来<br>なかった）理由 | 当該事業は計画どおり完了し、平成23年8月に市役所大手通庁舎を開設<br>し業務を開始した。中心市街地区域内に設置していた大手通分室と城内<br>町分室の部局を集約し、市役所本庁舎からも一部の部署を移転した。 |
| 計画終了後の状<br>況（事業効果） | 大手通分室と城内町分室の部局を集約したことにより、市民の利便性の向<br>上が図られた。   |
| 事業の今後につ<br>いて      | 今後は、まちなかにおける新たな核づくりを進めるとともに、商業の新陳代<br>謝や外部からの参入を促進する必要がある。   |

・大手通中央西地区第一種市街地再開発事業（個人施行者協同組合丸専）【再掲】

|                    |  |
|--------------------|--|
| 支援措置名及び<br>支援期間    | 地域住宅交付金<br>平成18年度～平成22年度   |
| 事業開始・完了<br>時期      | 平成18年度～平成22年度【済】   |
| 事業概要               | 地上18階の建物に、店舗(1階)とマンション(4階～18階、63戸)を整備し<br>たほか、ながおか市民センターから子育て支援施設を移転し、「まちなか絵<br>本館」を新たに併設した「子育ての駅 ちびっこ広場」(2階・3階)を開設し<br>た。 |
| 目標値・最新値            | 目標値:15人 最新値17人(H26.4.1)  |
| 達成状況               | 達成   |
| 達成した（出来<br>なかった）理由 | 当該事業は計画どおり完了し、既存の民間店舗の他、新たに子育て支援<br>施設を整備したことにより、目標値を上回った。   |
| 計画終了後の状<br>況（事業効果） | 官民の連携により就業者数は増加しており、今後も連携を強化していく。  |
| 事業の今後につ<br>いて      | 今後は、まちなかにおける新たな核づくりを進めるとともに、商業の新陳代<br>謝や外部からの参入を促進する必要がある。   |

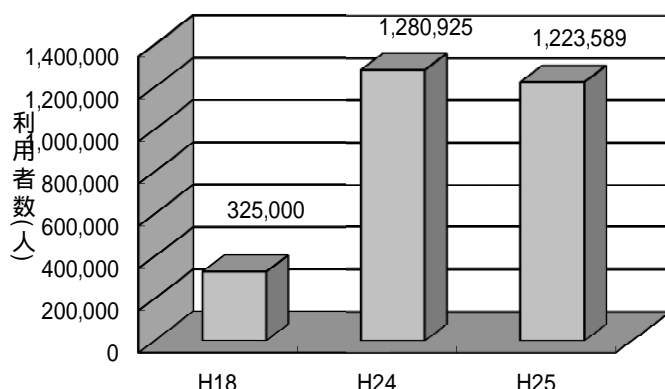
### 3.今後について

平成 24 年 4 月以降、厚生会館地区市役所事務機能整備事業等により市庁舎が完成し、市職員約 1,100 人が新たに中心市街地で勤務することとなった。また、アオーレ長岡の開業前から、中心市街地の空き店舗には飲食店等の出店による従業員の増加があったものの、平成 24 年の経済センサス基礎調査の結果では、昨今の経済状況が厳しいことを背景に、中心市街地の従業者数が大幅に減少していることが示されており、目標達成は困難である。今後は、まちなかにおける新たな核づくりを進めるとともに、商業の新陳代謝や外部からの参入を促進していく。

目標「まちで活動する人を増やす」

「目標指標名」 目標設定の考え方基本計画 P69～P72

1. 調査結果の推移



| 年            | (単位)                     |
|--------------|--------------------------|
| H18          | 325,000 人<br>(基準年値)      |
| H24          | 1,280,925 人              |
| H25<br>(目標値) | 1,223,589 人<br>780,000 人 |

調査方法；アオーレ長岡利用者集計および市民協働センター利用者集計  
 調査期間；平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日  
 調査対象；アオーレ長岡利用者、市民協働センター利用者

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

- ・長岡市公会堂(仮称)整備事業(長岡市)【再掲】
- ・宝田広場、長岡セントラル広場整備事業(長岡市)【再掲】
- ・屋根付き広場等整備事業(長岡市)【再掲】
- ・市民活動ホール(仮称)整備事業(長岡市)【再掲】
- ・厚生会館地区市役所事務機能整備事業(長岡市)【再掲】

|                    |  |
|--------------------|--|
| 支援措置名及び<br>支援期間    | まちづくり交付金<br>平成20年度～平成22年度  |
| 事業開始・完了<br>時期      | 平成20年度～平成23年度【済】   |
| 事業概要               | コンサートなど大規模イベントから一般のスポーツ利用などにも利用できるアリーナ(2,123 m <sup>2</sup> )や、中規模のイベントやサークル活動などを行うことに適した市民交流ホールA(314 m <sup>2</sup> )、ナカドマ(屋根付き広場)等を整備。 |
| 目標値・最新値            | 目標値:780,000 人 最新値:1,223,589 人(H25 年度)  |
| 達成状況               | 大幅に上回って達成  |
| 達成した(出来<br>なかった)理由 | アオーレ長岡の開業以降、継続的なイベント実施の場として、また、活発な市民活動の場として利用されてきたことにより、初年度の1年間で約 125 万人を達成し、当初の見込みを超える成果が現れた。   |
| 計画終了後の状<br>況(事業効果) | アオーレ長岡は中心市街地の「顔」として定着しつつあり、さまざまなイベントや活発な市民活動が継続的に行われている。   |
| 事業の今後につ<br>いて      | 今後は、中心市街地全体の公共公益施設の連携を強化しながら、まちなかで活動する人のさらなる増加を図っていく必要がある。   |

・まちなか賑わい創出事業（NPO法人復興支援ネットワーク・フェニックス）

|                    |   |
|--------------------|---|
| 支援措置名及び<br>支援期間    | まちづくり交付金  |
| 事業開始・完了<br>時期      | 平成23年度～平成27年度【実施中】  |
| 事業概要               | まちなかの賑わいを創出し、再開発事業の機運を高め、中心市街地における市民活動をいっそう活発にするため、大型LEDビジョン等による地域情報の発信や交流イベント等を実施する。   |
| 目標値・最新値            | -   |
| 達成状況               | 事業実施中   |
| 達成した（出来<br>なかった）理由 | 現在、事業継続中の当該事業は、まちなか情報発信事業における大型LEDビジョン、集客効果のあるミュージックフェス、中心市街地と連携して取り組んだ食フォーラムなどの事業を実施し、中心市街地の魅力向上とまちのにぎわいを醸成することで新たなまちづくりの高揚と都市機能の更新の機運を高め、「まちで活動する人を増やす」指標として定めた目標値である780,000人/年を達成した。 |
| 計画終了後の状<br>況（事業効果） | 継続して実施中。  |
| 事業の今後につ<br>いて      | 1期と同様に実施する。   |

### 3.今後について

アオーレ長岡は、さまざまなイベントや活発な市民活動が行われ、年間で128万人が参加した。これは、従来の公共施設利用の概念を超え、市民ニーズに対応した運用による成果となっている。

今後は、中心市街地全体の公共公益施設の連携を強化しながら、まちなかで活動する人のさらなる増加を図っていく。